

**第1回目黒区消防団運営委員会会議録**  
(令和7年6月23日付け都知事からの諮問に対する審議)

**1 開催日時、場所**

令和8年1月21日(水) 午後2時から午後2時44分まで  
目黒区総合庁舎4階特別会議室

**2 出席者(敬称略)**

(1) 委員長

青木英二(目黒区長)

(2) 委員

西崎つばさ(都議会議員)、青木英太(都議会議員)、山口せいや(都議会議員)

木村あきひろ(区議会議員)、山村まい(区議会議員)、川原のぶあき(区議会議員)

金井ひろし(区議会議員)、松嶋祐一郎(区議会議員)

植松秀喜(目黒消防署長)、高木雅(目黒消防団長)

(3) 事務局

目黒区：副区長、危機管理部長、防災課長

目黒消防署：警防課長

**3 傍聴者**

なし

**4 諮問事項**

「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」

**5 議事**

(1) 令和7年6月23日付け特別区消防団運営委員会への諮問について

(2) 諮問事項に対する検討の方向性について

(3) 今後の審議予定について

**6 配布資料**

(1) 目黒区消防団運営委員会委員名簿

(2) 令和5年8月16日付け特別区消防団運営委員会への諮問に対する目黒区消防団運営委員会の答申について

(3) 令和5年8月16日付け特別区消防団運営委員会への諮問に対する答申及び対応方針について

(4) 令和7年6月23日付け特別区消防団運営委員会への諮問について(写し)

- (5) 諮問事項に対する検討の方向性について
- (6) 審議予定（案）

## 7 会議概要

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 委員の紹介
- (4) 報告事項
  - ア 令和5年8月16日付け特別区消防団運営委員会への諮問に対する目黒区消防団運営委員会の答申について
  - イ 令和5年8月16日付け特別区消防団運営委員会への諮問に対する答申及び対応方針について

事務局： 昨年度末に答申を行った「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」の主な対応方針について、答申内容（公表済み）に沿って課題と検討の方向性を説明した。

（質疑なし）

- (5) 議事

- ア 令和7年6月23日付け特別区消防団運営委員会への諮問について

事務局： 令和7年6月23日付けで小池百合子東京都知事より「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」目黒区消防団運営委員会委員長宛に諮問がなされた。

首都直下型地震では600件を超える火災が発生すると想定され、消防署だけでは対応できない現実がある。そのため、防災機関や消防団と連携した体制の維持・強化が必要となっている。消防団は地域住民とともに暮らしていることから、災害時に早期対応でき、被害を最小限に食い止める大きな存在である。

このため、消防団が主体的に実践的な訓練を推進し、確実に効果的な活動を展開することが不可欠である。また、さまざまな主体との連携・取り組みを検討する一方で、消防団員の負担軽減に配慮した取り組みも求められている。こうした社会情勢と目黒区の地域特性を踏まえ、諮問内容に関する検討を着実に進めていくことが必要である。

（質疑なし）

- イ 諮問事項に対する検討の方向性について

事務局： 課題及び検討事項等

【課題1】 消防団員の負担軽減と活動環境の最適化が重要である。

(検討事項 1 - 1) 消防団活動の効率化による負担軽減について

(検討の方向性 1 - 1)

- ① 消防団専用アプリ等の導入による消防団運営の効率化や情報連絡体制の強化
  - ・ 出場指令や連絡事項のリアルタイム通知（個人スマホへのプッシュ通知等）による迅速な情報共有
  - ・ 報告書類のオンライン提出や団員証、団員手帳等の電子化など、事務手続の簡素化、効率化
- ② 各種資機材の機能性、利便性向上に向けた改善方策の検討
  - ・ 可搬ポンプ運搬車のコンパクト化や電動化などの操作性、移動性の向上
  - ・ 災害時の実情を踏まえ、現行資機材の有効性を再評価し、真に必要とされる資機材のあり方の検討
- ③ 従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討
  - ・ 新たな消防団点検の試行等を踏まえた「続けやすい消防団」の実現
- ④ 操法大会（訓練含む。）の工夫や改善などへの提案
  - ・ 「競技性」から「実効性」重視への見直し提案

(検討事項 1 - 2) 多様な主体との連携による被害軽減方策について

(検討の方向性 1 - 2)

- ① 各区、防災関係機関と連携した更なる入団促進
  - ・ SNS や地域広報誌等を活用した消防団の魅力発信の強化
- ② 町会自治会や学校コミュニティ等との更なる連携強化
  - ・ 町会、学校等と連携した入団体験の実施など、地域住民が消防団活動を身近に感じる機会の創出
  - ・ 多様な場を活用した消防団活動の理解促進
- ③ 在留外国人、外国人観光客への防災指導等に関する検討
  - ・ 多言語による防災啓発資料等の整備、やさしい日本語の活用

【課題 2】 災害対応力の強化と訓練の実効性を高めることが重要である。

(検討事項 2 - 1) 首都直下地震を想定した実戦的な訓練の定着について

(検討の方向性 2 - 1)

- ① 現行の訓練内容や方法の再評価による、効果的かつ効率的な訓練推進方策の提案
  - ・ 実災害の教訓を踏まえた訓練内容の見直し、ブラッシュアップ
- ② 東京消防団 e-ラーニングシステムを有効に活用した教育訓練体系の構築
  - ・ 東京消防団 e-ラーニングシステムの進捗管理や習熟度の「見える化」による体系的な教育訓練の実現
- ③ 訓練経過や訓練内容の「見える化」（アプリとの連動など）の推進方策の検討

- ・ 消防団専用アプリ等を活用した訓練記録の共有やデータ化の推進
- ④ 実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進
  - ・ 消防署との連携訓練のパッケージ化や中長期的な視点に立った訓練計画の策定
- ⑤ 震災等における長期間の活動継続を視野に入れた訓練の検討と課題の抽出
  - ・ 長期間対応や交代での対応を想定した「活動継続力」の訓練実施と課題の抽出

(検討事項 2 - 2) 消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の推進と充実について  
(検討の方向性 2 - 2)

- ① 各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討
  - ・ 住宅密集地や商業地、河川沿いなど地域ごとのリスク特性を踏まえた火災対応訓練の企画と実施方策
  - ・ 消防団員の構成（高齢化、女性、若年層など）に応じた柔軟な訓練スケジュールや内容の設定
- ② 方面訓練場や消防署訓練施設の有効活用に向けた方策の検討
  - ・ 震災などの大規模災害を想定した隣接消防団との合同訓練による訓練の実施

#### 【委員意見】

委員意見： 今回の知事からの諮問では、災害対応力を強化し、その実効性を高めていくことが重要であるとの観点から、各消防団が地域特性に応じた訓練内容や方策を検討することが求められている。目黒区においては、昨年9月の大雨・豪雨災害により大きな浸水被害が発生し、その際には区議会の災害等対策会議が立ち上がった。その中で、地域の消防団との連携をより強化する必要性が議論されていた経緯がある。

今回提示された資料には、河川沿いなど地域ごとのリスク特性を踏まえた訓練内容を盛り込む旨の記載がある。これが、地震や火災のみならず、豪雨災害など多様なリスクに対し、消防団が主体的に対応する訓練や活動も含むものとして位置づけられているのかが重要な確認事項となっている。本諮問はそれらを含むのか確認したい。

事務局： 消防署、消防団は火災を優先して活動するが、水災時は、要救護者がいる場合などは人命を最優先に活動することとなる。昨年9月の風水害を受け、消防団、警察署、区役所や消防署で意見交換を行い、関係機関が連携して対応する重要性についての共通認識を確認したところである。今後、どのような体制が望ましいのか検討していきたい。

委員長： 訓練の実施に当たり、一部で実施済みであるが、消防署、警察、消防団に対して協力を依頼する体制の整備、また、実際に災害対策本部が立ち上がった際に関係機関に参集を要請し、協力を強くしていく必

要があるのではないかと思います。

(質疑なし)

ウ 今後の審議予定について (案)

事務局： 本日は第1回委員会として、審議内容等について調査検討を行い、答申の骨子・素案の作成に取りかかる。令和8年度に入り、8月から9月頃に第2回委員会、令和9年1月頃に答申案をまとめて審議いただき、答申期日（令和9年3月31日）までに委員長名をもって答申する予定である。

(質疑なし)

(6) その他

目黒消防署長、目黒消防団長からあいさつ

8 閉会